広島県病院経営外部評価委員会（令和5年度第2回）議事概要

１ 日　　時　令和5年12月6日（水） 16:58から19:00まで
２ 場　　所　広島県庁本館6階　県立病院課（オンライン開催）
３ 出 席 委 員　谷田委員長、大毛副委員長、木倉委員、高橋委員、中西委員、平谷委員、和田委員
４ 議　　題
（1） 令和4年度経営計画の取組状況の評価とりまとめについて
（2） 第7次広島県病院事業経営計画骨子案について
（3） 令和5年度経営計画のモニタリングについて
５ 担 当 部 署　広島県病院事業局県立病院課調整グループ
TEL（082）513－3235（ダイヤルイン）
６ 会議の内容

事務局から資料について説明した後、令和４年度経営計画の取組状況、第７次広島県病院事業経営計画骨子案、令和５年度経営計画のモニタリングに関する協議・質疑を行った。

概要は以下のとおりである。

【質疑応答及び意見】

（1） 令和4年度経営計画の取組状況の評価とりまとめについて（資料2-1、2-2、2-3、2-4、2-5）

事務局から各県立病院の令和４年度経営計画の取組状況の評価とりまとめについて説明した後、取組状況の中で委員の評価が拮抗している項目を中心に協議・質疑を行った。

〈広島病院〉

(1)　医療機能の強化　Ⅰ　医療提供体制の強化　脳心臓血管（委員評価：◎４、〇３）

結論：委員会評価を◎とする。

委員：令和４年度は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」と表記。）の流行に伴う入院制限が続いていたにもかかわらず、入院患者数の実績は令和３年度と同程度であったことに加え、手術件数が増加したことから、県立病院としての役割を十分果たしたと評価し、◎とした。

委員：◎の評価に異議はないが、広島県の循環器病に係る施策と整合性が取れているのか検討してほしい。

委員：コロナ禍において、各指標の実績が前年度と同水準であったことを評価し、◎とした。

委員：多くの指標が目標に達していないことから〇としたが、令和３年度と比較して成果が向上した指標もあるため、◎とすることに異議はない。一方で、指標の大半が目標未達にも関わらず◎にするのであれば、当初の目標設定が正しかったのか疑問に思う。

副委員長：新型コロナの影響によってどの程度病床が制限されるのか、目標設定の段階ではわからなかったにもかかわらず、令和３年度以上に新型コロナ病床を稼働させた上で、同水準の実績となったことから、◎でよいと考える。

委員：最終的な評価は〇としたが、新型コロナの影響により目標が未達となったことを加味して、極めて◎に近い評価であった。過半数の委員が広島病院の努力を評価しているということであれば、◎とすることに異議はない。

委員長：各委員の意見を集約すると、新型コロナへの対応を十分に行ったことが重要な評価点となっている。一方で、広島病院の実績総括のページには「新型コロナ入院患者の対応にマンパワーを取られた」と記載されているが、項目ごとのページでは取組状況の説明が十分記載されていない。脳心臓血

管医療の項目で新型コロナ対応の記述が十分になされたことを確認した上で、委員会の評価を確定させたい。

委員：取組状況において、クラスター発生による入院制限に関する記述があったことから、新型コロナによって運営が制限される中でも努力したことを汲み取った。公表時には、新型コロナ対応について追記してもよいのではないか。

委員長：委員会の評価として、取組状況に新型コロナ対応について追記した上で◎の評価としたい。

(1)　医療機能の強化 Ⅳ　地域連携の強化（委員評価：◎３、〇４）

結論：委員会評価を〇とする。

委員：私は〇の評価とした。紹介率及び逆紹介率がともに上昇し、６大がん連携パス登録医療機関数も増加していることから努力は認められるが、県立病院として、県全体の地域連携という視点が必要である。今後の新病院構想では、地域連携をこれまで以上に強化する必要があるため、激励の意味を込めて〇としたい。

委員：広島病院は県立病院として、広島市南区や江田島市等の特定地域に限定するのではなく、広域で地域連携を行ってほしい。特定地域に限定すると、移転の際などにその地域に特化した意見が多く出るため、地域連携をより広域に拡大してもらうことを期待して〇とする。

委員：広島病院は、単一の病院が担う範囲にとどまらず、県全体をサポートすることが望ましい。新病院に対して大型投資をする中で、急性期や高度医療だけでなく、総合診療医の確保及び地域医療などにも投資をしてほしい。期待を込めて〇とする。

委員：各指標が目標を達成していることから◎としたが、複数の委員が指摘している広域連携の重要性には同意する。一方、広島市中心部には別の総合病院が所在し、広域での連携が難しい点がある。このため、近隣から着実に地域連携を進めているのではないか。地域連携は新病院構想における課題であるため、今後の議論において重要な視点となると考えている。

委員：地域の医療従事者や患者及び地域住民を対象とした講習会等を増加させ、紹介率及び逆紹介率が前年度実績を超えていることから、◎に変更してもよい。

委員：医療機関への訪問は地理的に限定されると思われる。一方、地域住民を対象とした講習会等は、広く県民も対象としており、紹介率及び逆紹介率が非常に順調であるため、◎とした。

病院事業管理者：広域での地域連携について、複数の委員から指摘のとおり、立地条件等に影響されていると考えている。新病院構想においては、県内全体を俯瞰して医療体制を整えるために、広報力やブランド力を高めることで、県内全体から患者が来る病院にしなければならない。まだ実力不足のため、委員会で挙げられた意見を活かしていきたい。

委員長：資料２－５「（３）患者満足度の向上　Ⅷ　患者満足度の向上」に、県全域の医療機関にアンケートを取ったとある。23%から回答を得て、結果はおおむね良好とのことであるが、補足説明してほしい。

広島病院長：紹介があった医療機関のみを対象とした令和元年のアンケートと異なり、今回は全く紹介のない医療機関も対象としているため、東部からの回答がほとんど無く、回答率は下がっているが、回答数は増加している。アンケートの結果、アクセスがネックとなり紹介が難しいことや紹介から診察までの期間が長いなどの意見が寄せられたため、改善に向けて対応している。

委員長：23%の回答率について、どのように評価しているのか。

広島病院長：より多くの回答を得たいと考えているが、広島病院と患者紹介のやり取りをしていない医療機関は回答率が低い傾向にある。また、今回はウェブ回答であったため、ウェブ対応が難しい医療機関からの回答率が低いのではないかと分析している。

委員長：複数の委員から取り組むべきと意見のあった広域及び県全域での地域連携には、現在紹介を受けていない医療機関との連携も含まれているのではないか。

委員：そのとおり。広島病院の連携先は広島市の旧市内など、県南部が中心となっているように思う。立地の制約はあるが、広島病院は県北部や東部などから見ても信頼できる病院なので、平素から人的交流や情報共有をしながら、県全体をリードする役割を果たしてほしい。また、その取組を新病院への移行計画の中でも活かしてほしい。

委員：県内全域の医療機関から「この患者さんはぜひ広島病院で治療していただきたい」と思ってもらえるよう、広島病院で多くの患者を受け入れる姿勢が必要ではないか。

委員：アンケート結果から、県全体に目配りをしていることが良く分かった。広島病院ではすでに改善策に取り組んでいると思われるため、その取組を県全体に発信をしてはどうか。

委員：県全体を対象にアンケートを実施したことは評価できる。医療機関とのコミュニケーションの手段として継続することが望ましい。患者の紹介や逆紹介のない病院に対しても、アンケートを取る意味を丁寧に説明することで、そのやり取りが次の紹介にもつながるのではないか。

広島病院長：ウェブを活用したアンケートは職員の負担が非常に少なく、毎年実施できるのではないかと考えている。アンケートの目的を明確にしたうえで、紹介あるいは回答がない病院に伝え、回答率を向上させたい。

委員：広島病院が強化したいと考える診療科と、医療機関が広島病院に紹介したいと考える疾患にアンマッチがあるのではないか。広島病院が強化したい診療科を広報するとともに、アンマッチの有無について調査してはどうか。

委員長：広域あるいは広島県全域での地域連携をキーワードとすると、全体への働きかけは始まったばかりである。紹介率及び逆紹介率は高いが、次に期待するという意味合いから、委員会の評価としては〇としたい。また、評価報告書には、広域あるいは広島県全域での地域連携というキーワードを盛り込みたい。

(4)　経営基盤の強化 Ⅺ　経営力の強化（委員評価：◎４、〇３）

結論：委員会評価を◎とする。

委員：コロナ禍において、新規入院患者数が前年度から増加していることから〇とした。今後、他病院と統合するなどして新病院に移行するにあたって、県立病院ならではの機能をどのように発揮するのかを分析し、その強みを明確にしてほしい。

委員：コロナ禍において、病棟の弾力的な運営に努めたことやＤＰＣ特定病院群の要件を維持したことを評価し、◎とした。

委員：新規入院患者数が目標に達していないため〇としたが、取組内容については◎と遜色がないと考えている。

委員：新規入院患者数の目標は達成できなかったが、新型コロナの影響が続く中、令和３年度よりも増加しているため、大きな問題ではないと考えている。そのほかの項目については令和３年度と比較して実績が向上していることから、◎に値するのではないか。

副委員長：コロナ禍において、経営力の強化を評価することは困難であるため〇としたが、病棟の弾力的な運営及びＤＰＣ特定病院群の要件を維持したという観点であれば、◎とすることに異論はない。

委員：新規入院患者数が前年度より増加したことや病床稼働率及び入院期間Ⅱ超えの割合が向上しており、新型コロナの流行に伴う制限がある中での努力を評価して◎とした。

委員長：コロナ禍を振り返った際に、黒字を維持できた要因に係る分析が不足していると思われる。しかし、経営力の強化に係る指標をみると、組織が機動的に動いていることが分かるため、経営力の強

化という観点では、非常に高い評価をしてもよいのではないかと考える。一方、黒字が維持できた要因の分析が不足していることについては、今後の課題として留意してほしい。委員会の評価としては◎としてまとめる。

〈安芸津病院〉

⑶　患者満足度の向上　Ｘ　広報の充実（委員評価：◎４、〇３）

結論：委員会評価を◎とする。

委員：毎年４回発行する広報誌を見たところ、病院の機能やスタッフの動きが住民にわかりやすく伝わるよう工夫されている。広報誌の機能が良く発揮され、ホームページの閲覧件数も増加していることから◎とした。

委員：ホームページの閲覧数が増加していることやイベントでの広報による成果が得られていることから、◎とした。前回も指摘したが、ネットを頼りに医療情報を入手する層が非常に増加しているため、ネット上での広報の充実は重要と考えている。

委員：コロナ禍においても出前講座に注力したことやホームページを充実させて閲覧数が増加しているのは評価できるが、患者数減少に歯止めがかかっていないなどの課題を総合的に勘案して〇とした。

副委員長：ホームページの閲覧数が飛躍的に増加しているのであれば、◎とすることに異論はない。

委員：ホームページの閲覧数が非常に大きく増加したことは、職員の努力の成果であると考えられるため、◎とした。また、地域活動に参加することで、来院する敷居を低くするような広報も非常に有効であると思う。現在の活動を続けてほしい。

委員：◎の評価としており、各委員の意見におおむね同意する。竹原地区医師会に所属する医師から、安芸津病院のホームページが分かりやすくなったとの話を聞いた。

委員長：委員の意見を集約し、委員会評価は◎としたい。このほか、資料２－５「（１）医療機能の強化　Ⅱ　医療の安全と質の向上　医療の質の向上」において、「カルテ提供の検討にあたり、坂出市立病院、高松市民病院等の先進事例の情報収集を検討したい」とあるが、検討は進んでいるのか。

安芸津病院長：具体的には決まっていない。情報収集を検討したい。

委員長：カルテの提供は非常に効果が高く、広い意味での広報でもあるので、実現するよう、検討してほしい。

総括

委員：令和４年度の評価ということで、まだ地方独立行政法人を目指すという記載になっていないのだと推察する。表現については適切であると思われる。

委員長：前回は記載していた地域医療構想について、今回は記載していない。新病院に移行すると県全域を見据えることになるため、地域医療構想という言葉から、「県全域の医療提供体制を視野におく」という表現に変更した。

委員：地域医療構想といっても、対象は二次医療圏域だけではないため、矛盾するものではない。新病院に関する各種公表資料等によると、新病院は、今後の人口及び疾病構造の変動を踏まえた県全体の病院としての機能を果たし、県北部を含めた医師の派遣や専門性のある人材研修も行っていくとのことであるから、「今後の人口構造変化を踏まえた地域医療構想を進める中で、県全体の医療的な中核としての機能を果たせるように」など、令和４年度の評価報告書と言葉の継続性を持たせてもよいのではないか。

委員：地方独立行政法人に移行することで、県立病院の立ち位置が見直されるため、関連する表現を記載してはどうか。

委員：安芸津病院の費用合理化対策に関する記載について、県民に対して報告する内容となるため、「より一層効率的な経営に努めてください」とあるところを、「より一層効率的な経営に努めていただくことを要望します」という表現に変えてはどうか。

委員：安芸津病院の自己評価及び委員会評価について、◎が非常に少ない状態となっている。地域の医療を守るという意味でも、安芸津病院には一層の努力により◎の評価となるようお願いしたい。

安芸津病院長：直近では地域のイベントや大崎上島町での医療公開講座の開催等を再開した。これにより、入院患者数も増加しているため、今後はよい方向に向かっていくだろう。

委員長：委員の意見を踏まえ、修正した上で最終的な評価を取りまとめたい。全体の取りまとめは委員長に一任して頂きたい。

(2) 第7次広島県病院事業経営計画骨子（案）について（資料3）

事務局から資料３について説明を行い、その後、委員による協議・質疑を行った。

【質疑等】

委員長：事務局の説明に対し、委員の意見を伺う。

委員：令和７年度から地方独立行政法人の経営形態で、統合対象である県立広島病院及びＪＲ広島病院とともに県立安芸津病院を一体的に運営することになるため、次期病院事業経営計画は、それまでの１年限りの計画として策定されることが前提になる。また、令和６年度からは、新しい保健医療計画が開始し、その中では地域医療構想についての議論がなされるとともに、県立病院の果たすべき役割について位置づけがなされるのではないか。ついては、次期病院事業経営計画は、健康福祉局で策定する他の計画との整合性を図るべく、庁内の関係部局間で協議しながら策定するという理解でよいか。それとも、地方独立行政法人が認可を受けた際の中期計画を策定する中で、練り直しとなるのか。

事務局：令和６年度から新しい保健医療計画が開始されるため、次期病院事業経営計画の策定に当たっては関係部局と協議し、健康福祉局で策定する他の計画との整合性を図りながら策定を進めているところである。また、令和７年度から地方独立行政法人での運営が予定されているが、関連法で定められる中期計画についても、健康福祉局において関連部局間で協議しながら策定を進めていくものと考える。

委員：了解した。次期病院事業経営計画の計画期間が１年間あっても、まずは令和６年度に開始する保健医療計画との整合させたうえで、その後は新しい運営形態の中で再度議論されると理解した。

委員：安芸津病院について、耐震化対応に係る計画を含めてどのように考えているのか。入院患者数や医療需要を精査するということで検討作業が中断しているが、次期病院事業経営計画期間の１年間でどのように議論を進めていこうと考えているのか。

病院事業管理者：地方独立行政法人化しても安芸津病院の耐震化対応を進めていくことに変わりないが、コロナ禍により第６次病院事業経営計画における収支計画と実績の間に乖離が生じているため、患者の受療動向を見ながら検討していきたい。現時点で期限を定めるのは難しいが、着実に進めていきたい。

委員：竹原地区医師会の医師も心配をしているので、よろしくお願いしたい。また、公立病院経営強化プランについて、医師・看護師等の確保と働き方改革について記載が要請されているが、一方で医師等を地域へ派遣するとともに、看護師や薬剤師をはじめとする様々な職種を確保できるよう検討してほしい。

病院事業管理者：今はどちらかというと軸足が医師の確保に向いているが、看護師や薬剤師、理学・作業療法士等の人材確保・育成に努めるとともに、中山間地域への医療従事者派遣のシステムについて

の様々な議論が必要であり、新病院に向けた大きなミッションとして達成していきたいと思う。

委員：５頁の取組項目の中で、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組について、新型コロナに係るこれまでの対応を分析したうえで備えていくという説明について賛成である。今後、新型コロナ対応の経験を引き継ぐため、何らかの形で取りまとめを行うのか。

病院事業管理者：様々な分析を実施しているところであり、コロナ禍での新型コロナ専用病床の確保や発熱外来の体制整備等の経験を基にして、今後の新興感染症拡大時に対応できるような体制作りを進めることになっている。また、この３年間の経験をどのように生かしていくかということについては、今年度末を目途に健康福祉局においてまとめていくものと考えている。

委員：この３年間、県立病院が率先して新型コロナ患者を受け入れたことは高く評価されており、県立病院の取組は他の医療機関の参考になると思う。ある程度ノウハウ化されたものを対外的に発信すれば県民の利益となるのではないか。

委員：令和６年度から医師の働き方改革が具体的に始まるところであるが、広島病院には重点的取組の中で働き方改革が記載されている一方で、安芸津病院に記載されていないのはなぜか。また、新型コロナの後遺症について、厚生労働省のホームページに各都道府県に医療機関の一覧が掲載されているが、広島県においてもまずは掲載されている個別の医療機関に対応してもらい、紹介があった場合に広島病院等の専門科が対応するのか。

事務局：まず、先ほどお示した図表５の各県立病院の重点的取組のうち、安芸津病院が働き方改革を設定していない理由は、令和４年度の実績において、安芸津病院は全ての医師がＡ水準の時間外勤務が 960 時間以内であることによる。一方、広島病院は時間外勤務が 960 時間を超える医師が７名存在したため、特に働き方改革に力を入れていくこととした。

広島病院長：新型コロナの後遺症について、当院では入院した患者を退院後にフォローしているが、いわゆる後遺症外来として他の医療機関からの紹介は受けていない。

副委員長：重篤な呼吸器の後遺症については県内で対応ができているが、それ以外に後遺症の症状が複雑で重篤な患者がいるので、そのような患者は全国どこを探してもなかなか難しいのが現状かと思う。

委員：どこで受診すれば分からないというような悩みを持っている患者がいることについて留意してほしい。

委員：令和７年度から地方独立行政法人に移行して、新病院ができるまでは複数病院を経営していくということで、来年度は地方独立行政法人化のための準備期間というような形に位置づけられる。運営主体が一本化する地方独立行政法人化を契機として購買や委託費の一元化ができないのか。また、例えば、看護師のマニュアルはバラバラでよいのかなどの事務的な課題が非常に多く出てくるのではないかと思っている。さらに、広島病院の入院単価等は既に高い水準であり、これ以上を目指すのは難しい状況ではないかと考えており、費用側にメスを入れ、材料費や委託費について見直すことにより、安定的な経営ができないのかということに関心を持っている。

事務局：費用の適正化は重要と認識しており、更なる研究を進めてまいりたい。

副委員長：現在の病院経営については、高額な医薬品や医療材料が増えている一方で、差益が期待できない状況である。そのような状況下で、ベースアップや働き方改革に関連して人件費は増加しており、光熱費や食材費も高騰している。病院経営がより厳しくなる中でも医療機器の更新等の投資がどうしても必要になるので、どこで財源を確保するのかということが課題である。

広島病院長：要望として、骨子案の環境変化に病院の努力ではどうにもならないような物価高や社会経済的な要因があるため（６）として追記してほしい。

事務局：環境変化の項目の（１）から（３）については現行計画から継続するものであり、（４）及び（５）は公立病院経営強化ガイドラインで新しく示されたものを採用したところである。管理不能費用の増大については研究を進めていきたい。

委員長：地方独立行政法人の中期計画に先立って中期目標を示すことになるが、次期病院事業経営計画との整合性はどうなっているのか、完全に分断された計画ではないと思うので伺う。

県立病院課長：現在、健康福祉局において新病院について検討を進めているところであり、可能な限り連携を図る必要がある。しかし、新病院の検討に係るスケジュールをはじめ、完全に足並みを揃えられるかは不明であるため、引き続き健康福祉局とスケジュール等を調整しながら、次期病院事業経営計画の策定を進めてまいりたい。

委員長：県立病院の一つの風土としてＴＱＭについて触れてもよいのではないか。また、新型コロナの振り返りとして医療的な面だけではなくて経営的な面として、黒字の分析あるいは資金収支の分析を行ってほしい。事業の継続性を考えた際に、最終的には資金の継続性であるので、一般会計からの操出を含めて、政策分の行政負担と通常の保険診療での資金の生まれ方を示してほしい。さらに、固定費である人件費や施設関連費は、能力を維持するという重要な役割を持っているので、使ったものについての対価として何かを得るというだけではなくて、使いはしないが災害や新興感染症に備えていることや県全域への人材派遣に備えることなどの収益とは結びつかない部分についてもコストが相当に掛かることは想定されているわけなので、それらも加味した上での収支について考えてほしい。

事務局：まず、ＴＱＭに係る提言について、図表３の取組体系で示している業務改善の取組項目として、素案及び最終案と次期病院事業計画策定を進めていくに当たって盛り込んでいきたい。また、新型コロナ関連の提言について、次期病院事業計画策定を進めるに当たり、現行病院事業経営計画の成果を検証する際に、新型コロナ対応の振り返りも行っていくので、コロナ禍の経験を踏まえた内容を記載していきたい。

委員長：新型コロナ補助金があったから黒字になったというような短絡的な話ではなく、新型コロナ補助金がどのような役割を果たしたのか説明してほしい。病棟や人員が制限される中、通常医療を続けたことにより、保険診療は大きく落ち込むことがなかったのではないか。コロナ対応と通常医療を両輪で行ったことで黒字が達成されたなどの、より現実に即した表現にしてほしい。

⑶ 令和4年度経営計画のモニタリングについて（資料4）

事務局から各県立病院の令和５年度経営計画の取組状況について説明を行い、その後、委員による協議・質疑を行った。

〈広島病院〉

委員長：患者数増加に向け、医療機関からの紹介を増加させるため、顔の見える関係を構築するとのことであった。委員からの提案はあるか。

委員：広島病院に紹介するとよい治療が受けられる、早く治療してもらえるなどのよい情報が伝わるよう、広島病院の目標について、多くの医療機関に知ってもらえるよう全県に対してアピールすればよいのではないか。

委員：ＫＢネットやHMネットを活用し、普段から医療機関との信頼関係を築いてもらいたい。

委員：コロナ禍において見えなかったこと、何がプラスで何がマイナスだったのかという分析をするこ

とで、今後の経営に活かせるのではないか。

委員：かかりつけの医療機関において、総合病院などの連携先を一覧にしたものがあれば、患者としてはどの医療機関とつながっているのかが分かり、安心感がある。全県的に連携できる関係づくりを進めてほしい。また、未達の項目は目標自体が厳しいものだった可能性がある。最終的な結果は分からないが、目標が高いのであれば、その旨を説明してほしい。

委員：新規入院患者数を増加させるためには、地域連携室の活動をどれだけ活発にできるかが重要。民間病院の方がより活発に行っていると思われるため、情報交換ができればヒントが見えるのではないか。

副委員長：病院経営の立場から、県の事務局に申し上げたい。公的な病院には、ある程度費用対効果に目をつむって取り組まなければならない役割があり、それを今後、新病院で行っていくためには、一般会計にも相応の負担を求めなければ立ち行かなくなることを知ってもらいたい。

委員長：抽象的な表現となるが、患者及び開業医をより気にかけてはどうか。新型コロナに罹患して入院した患者が在宅に戻ってどうなったか、開業医を尋ねてどのような状況にあるか把握することで、次のステップにつながるのではないかと思う。

〈安芸津病院〉

委員：健（検）診による疾病等の早期発見及び重症化の予防は非常に重要である。健（検）診を受けた人がかかりつけの患者になることで、中山間地の生活機能そのものが維持されると考える。患者との近い距離を活かして声掛けをしてほしい。広島病院からのサポートを受けながら、住民の生活維持ができるよう努めていただきたい。

委員：コロナ禍で入院及び外来患者数が伸び悩んでいたが、順調に戻ってきている。また、耐震化対応についても、今後の委員会で協議したい。

委員：患者にとっては顔の見える関係が重要であることが改めて分かった。特に専門外来の項目では、患者が病院に何を求めているか、これまで見えなかった病院の強みが認識できた。

委員：病院経営では、どのように人材を確保するかが重要である。医療スタッフ全体の人材確保について、待遇面も含め、病院だけでなく、病院事業局全体で取り組むべき問題ではないか。

副委員長：モニタリングの結果は、素晴らしい実績である。

委員：ホームページでＰＲしたことで、専門外来受診患者数が目標を上回ったことから、広報の重要性が良く分かった。特に健（検）診の件数が多いということは、クリニック経由ではなく、安芸津病院が各家庭とつながっているということである。地域に受け入れられ、根ざしている結果が表れたと、非常に喜ばしく思っている。

委員長：広島病院が安芸津病院を気に掛けるだけで、安芸津病院の経営が良くなるということは、逆もまたあり得る。安芸津病院も広島病院を気に掛けるような関係を作っていただくことで、新病院における人事運用のモデルになるのではないか。

⑷その他

質疑なし

7　会議の資料名一覧

・資料１　　会議次第、令和５年度外部評価委員会の進め方
・資料２－１　令和４年度経営計画の取組状況に係る評価報告書（案）
・資料２－２　令和４年度経営計画の取組状況に係る評価表（案）

・資料２－３　令和４年度経営計画の取組状況【最終案】（広島病院）
・資料２－４　令和４年度経営計画の取組状況【最終案】（安芸津病院）
・資料２－５　令和５年度第１回病院経営外部評価委員会における令和４年度経営計画 取組状況に対する意見等
・資料３　第７次広島県病院事業経営計画骨子案
・資料４　令和５年度経営計画指標モニタリング